

# 日本のGDPは過去最大のマイナス

## ポイント① リーマンショック時以上の減少

8月17日に発表された4-6月期の日本の実質GDP（国内総生産）は、前期比年率換算値（前期比を1年当たりの変化率に変換したもの）で-27.8%と、3四半期連続のマイナス成長となりました。マイナス幅はリーマンショックに伴う景気後退期中の2009年1-3月期の-17.8%を上回り、過去最大となりました。需要項目別には、個人消費と輸出の減少が特に大きく、国内外の新型コロナウイルス感染拡大の影響を強く受けました。

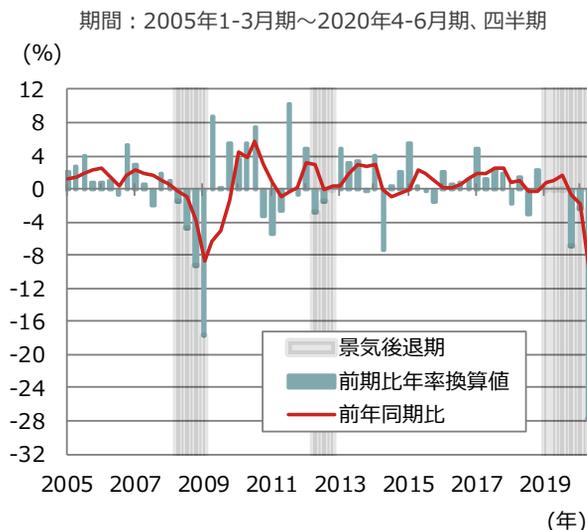
## ポイント② 企業利益は大幅減の公算

経済全体が生み出す付加価値を示す名目GDPも、4-6月期には前期比年率換算値で-26.4%、前年同期比-8.5%と大幅に減少しました。一方、雇用者報酬は前期比年率換算値-14.7%、前年同期比-2.7%と減少したものの、名目GDPよりも小幅の減少に留まっています。景気悪化の中でも企業が従業員の雇用をできるだけ維持していることによるものと考えられます。ただ、その分、企業の労働コストの負担が重くなり、企業利益は大幅に減少すると見られます。

## ポイント③ 今後の回復ペースに注目

5月に緊急事態宣言が解除されたことなどから経済活動再開の動きが広がり、7-9月期には名目・実質GDPは前期比プラスに転じると予想されます。ただ、7月頃から感染が再拡大し、人々が移動や密集を避ける傾向が続いていることや、雇用や所得への不安感などから、個人消費などの国内需要の回復ペースは緩やかなものに留まりそうです。世界景気の回復による輸出の増加や、金融・財政両面の景気対策の効果によって、どの程度景気を後押しできるかが注目されます。

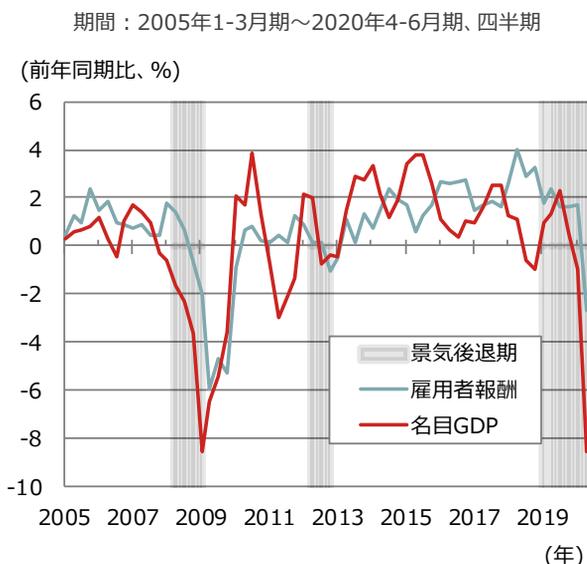
### 図1：日本の実質GDP



(出所) 内閣府HP (<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>)

データを基に野村アセットマネジメント作成

### 図2：日本の名目GDPと雇用者報酬



(出所) 内閣府HP (<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>)

データを基に野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

8月19日

8月31日

日本貿易収支（7月）

日本鉱工業生産指数、小売売上高（7月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

**NOMURA**

野村アセットマネジメント